

泉での戦い

ある小さな泉へマムシが水を飲みにやってきました。その泉に以前から住んでいた蛇は自分のテリトリーを侵されたことにおおいに怒り戦いを挑んだ。戦いに勝ったものがこの泉の主になる事を取り決め、また決闘の日取りもきめた。

この泉に住んでいた蛙たちにとっては一大事の事態になった。かねてからいじめられて恐ろしくも憎らしい存在であるこの泉の主をやっつけてもらうため蛙たちはマムシのところへ急いだ。そしてマムシを応援することを約束した。

いよいよ戦いは始まった。蛙にとって最も恐ろしい存在である二匹の蛇の戦いに蛙はなす術もなくただおおきな声で鳴くばかりだった。

すざましい戦いの後、結果はマムシの勝ちに終わった。マムシは蛙たちに向かって怒鳴った「お前たちは応援や助太刀を約束しておきながら何もしないで歌っていただけじゃないか」

「しかし、マムシさんよ 私たちの応援とは手や身体ではなく声でやるしか方法がないんだよ」



夏の日

きびしい暑さの続く夏でした。沼の水はたちまち干上がってしまいました。その沼に住んでいた蛙たちは水のある沼を見つけに移動を始めました。すると大きな井戸がありました。中には美しい水がたっぷりありました。

「おいみんな 此処がいいよ いっしょに降りていこうよ」と一匹の蛙が叫びました。すると次の一匹が「駄目だよ この井戸の水が干上がったら どうして外へ出るのかね 上ることはできないよ」と言いました。



大きい魚と小さい魚

漁師が網をひきました。確かな手ごたえがあって大きい魚がかかっていました。小さい魚は網の目をくぐって逃れることができました。

